

1 8. 大分県飼料作物奨励品種の選定について

農林水産研究指導センター畜産研究部

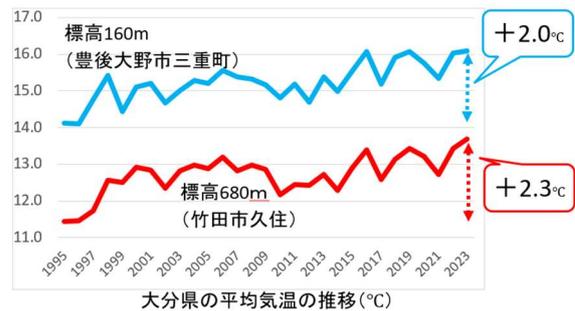
○照山友実子・石井怜・齊藤武志

1 はじめに

近年海外情勢の影響を受け乾牧草の輸入価格は高騰しているため、自給飼料の生産は重要視されている。また温暖化の影響から県の平均気温は年々上昇し、この暑熱の影響を受け牧草の病害発生や寒地型牧草の夏枯れなど問題視されている。

このような背景から、能力が高く気候変動に対応できる牧草の品種選定が課題である。

畜産研究部ではおよそ50年前から県の気候条件に合い、より優れた能力の「大分県飼料作物奨励品種」を選定するために、奨励品種選定試験を継続的に実施している。



2 材料および方法

本試験では高い能力に期待できる品種の生育性および収量性等を既存の県奨励品種と比較試験をする。1品種につきおよそ3年間調査を行い、その調査結果を基に研究部から奨励品種を推薦し、「飼料作物奨励品種選定会議」において県奨励品種に指定している。

3 成果

研究部では10年間で計263品種の選定試験を行った。その調査結果を基にイタリアンライグラスが8品種、飼料用トウモロコシが8品種、ソルガムおよびスーダングラスが6品種など、計29品種が奨励品種となった。なお飼料用稲および飼料用米は農業研究部水田農業グループが試験を担当している。また10年間で生産者の現場実証圃をイタリアンライグラス10か所、飼料用トウモロコシ2か所など計14か所設置した。

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
イタリアンライグラス	1		3		1		1	1	1		8
飼料用トウモロコシ	1	1	1	1	1		1		1	1	8
ソルガム/スーダングラス			1	1		1		3			6
ペレニアルライグラス										1	1
飼料用稲/飼料用米	3			1	1	1					6
計	5	1	5	3	3	2	2	4	2	2	29

「大分県飼料作物奨励品種」指定品種数の推移

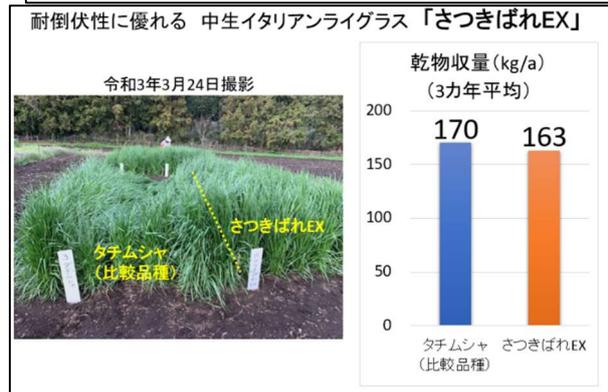
さらに生産者への普及に向け、研究部のホームページに奨励品種一覧の掲載や「大

分県草地飼料協会」と協力し、奨励品種特性表のパンフレットを作成するなどの活動を行った。

以下では近年の試験結果において特に優れている品種をピックアップする。

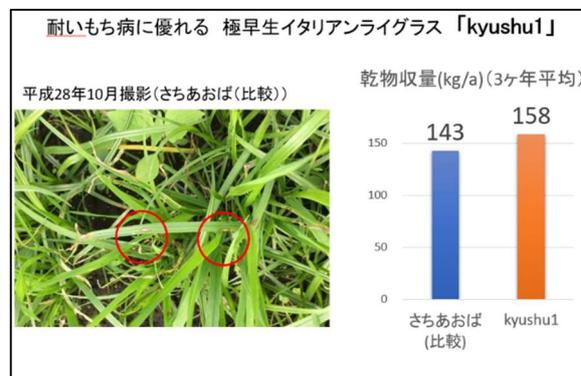
(1) イタリアンライグラス「さつきばれEX」

イタリアンライグラス「さつきばれEX」は特に耐倒伏性に優れる中生品種である。耐倒伏性に優れている比較品種「タチムシヤ」が雨風の影響を受け倒伏したが「さつきばれEX」は倒伏しなかった。3カ年平均の乾物収量は比較品種に比べて若干少ない結果となった。しかし本試験は手刈りの調査結果であるため、実際の生産現場において機械で刈取を行う場合は刈残しが少なく、牧草の蒸れが少ないため多収で良品質な牧草が期待できる。



(2) イタリアンライグラス「kyushu1」

イタリアンライグラス「kyushu1」はいもち病抵抗性に優れる極早生の品種である。いもち病とは紡錘状で中央部が灰白色の病斑が発現し、病害がすすむと収量および栄養価が下がる原因となる病害である。本病害は暑い時期に発生しやすくなる。年内刈を目的とした栽培体系において特にいもち病のリスクが上がるが、本試験の結果では、比較品種の「さちあおば」は10月にいもち病が発生したことにに対し、「kyushu1」は発生しなかった。また3カ年平均の乾物収量も多い結果となった。

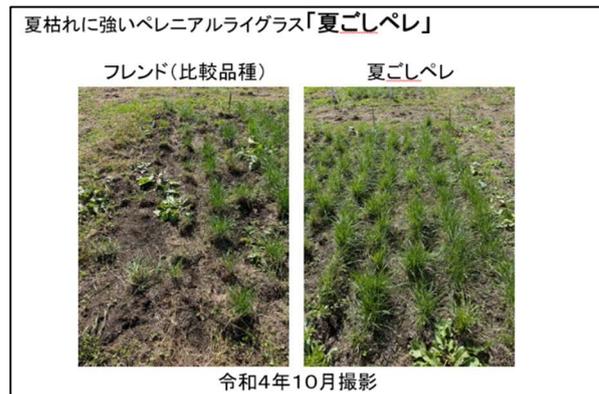


(3) オーチャードグラス「まきばゆうか」

オーチャードグラス「まきばゆうか」は夏枯れに強い極早生品種である。県内では高標高地の牧野で広く生産されているが近年の暑熱の影響からオーチャードグラスの夏枯れが問題視されている。本試験の結果、比較品種「アキミドリII」と比べて立ち枯れが少ない結果となった。

(4) ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」

ペレニアルライグラス「夏ごしペレ」は夏枯れに強い晩生品種である。県内の高標高地の牧野で生産されているがオーチャードグラスと同様に夏枯れが問題視されている。本試験の結果、比較品種「フレンド」は播種3年目では夏枯れにより大部分が消失したが「夏ごしペレ」の夏枯れは少なかった。



4 今後の課題

このように能力が高い品種を県の奨励品種として指定しているが県の飼料作物種子に対する奨励品種の種子の購入割合は28%と低い状況である。畜産農家の経営安定化に向けてより広く普及するためにPRが必要である。

そのために今後も畜産技術室と振興局との協力体制を強化し、引き続き現地実証圃の設置や振興局への栽培技術指導を行い、大分県のさらなる自給飼料の増産および品質の向上を図っていく。

畜産研究部は今後も引き続き能力の高い奨励品種を指定し、また奨励品種を試験研究に組み込み効果的な管理方法を検討する。